

報 告

福祉用具プランナー研究ネットワーク（プラネット）第5回研究大会

福祉用具プランナー研究ネットワーク（プラネット）

研究大会担当理事 中島 勉

1. はじめに

福祉用具プランナーは、福祉用具専門相談員だけではなく、理学療法士や作業療法士をはじめとする医療従事者、ケアマネジャーや介護福祉士など福祉用具に関わる幅広い多職種が取得することの出来る資格である。住み慣れた地域で安心して生活できる環境整備を多角的な視点で行うことのできる専門家とも言える。全国の福祉用具プランナーたちは情報を共有する場、活躍する場、自己研鑽の場を求め、2014年10月4日に全国組織である福祉用具プランナー研究ネットワーク（以下、プラネット）を誕生させた。

2. 第5回研究大会

2019年7月21日（日）に熊本県熊本市の「くまもと森都心プラザ」で令和最初のプラネット第5回研究大会が開催された。今大会のテーマは、「みんな一つのチームだモン!」である。開催地区会のプラネット熊本は、日ごろから『多職種連携、協調、楽しむ、チャレンジ』をモットーとし、多職種の人々が互いに手を取り合い、協力・理解しあいながら1つの「チーム」になっていきたいという想いが込められたテーマであった。台風7号接近の予報で一時は開催が危ぶまれたが、結果的に会場近辺に特に大きな影響もなく、何とか無事に開催することができた。とはいえ台風の影響で時折雨が激しく降る足元の悪い状況の中であったが、それでも全国から100人以上のプランナーの仲間たちが会場に駆けつ

けてくれた。

3. 大会当日の様子

大会に先立ってプラネット第6期通常総会が行われ、議案は全て承認され、設立5周年を迎えたプラネットが令和のスタートを切った。

総会后、開会宣言の下、プラネット第5回研究大会が始まった。



図1 開会式の様子

特別講演としては、フットケアシンシア代表の竹志保氏による「転倒予防と足・フットウェア（靴下・靴下・インソール）の関係性」、株式会社くますま地域生活応援館 管理者の内田 正剛氏による「福祉用具・住宅改修導入公開事例検討会」、株式会社リハブインテリアズ 代表取締役の池田 由里子氏による「住まいのインテリアリハビリテーション」が行われた。改めて様々な視点でアプローチすることでその人らしい生活をするために出来ることはまだまだたくさんあることを学んだ。

プラネット協賛会員企業の展示やプレゼンテーションではメーカー担当者から普段聞くことのできない開発秘話や課題を聞くことができ、参加者の方からも積極的な質問やアイデアが飛び交っていた。

福祉用具プランナー研究ネットワーク

公益財団法人テクノエイド協会内

〒162-0823 新宿区神楽河岸 1-1

セントラルプラザ 4F



図2 参加者との積極的な意見交換

会員による演題発表では、8題のエントリーがあり、参加者との質疑応答や、活発な議論がなされて大いに盛り上がった。

可搬型階段昇降機安全推進連絡会のランチョンセミナーは、昼食付きの申込枠が先着50名であったが早々と埋まり、当日は聴講だけの参加者も大勢いるほど大盛況であった。可搬型階段昇降機は、実際に目にする機会はまだまだ少ないため、参加者は普段関わる対象者を想像しながら試乗や操作体験を行っていた。



図3 協賛企業の展示会場で体験する参加者

4. おわりに

研究大会は、第1回目を東京で開催し、第2回(兵庫県姫路市)、第3回(愛知県東海市)、第4回(長野県松本市)、そして第5回(熊本県熊本市)と、これまで全国5箇所で開催された。研究大会を通して新しい出会いや繋がりは全国に広がっていき、今年も参加者同士が会場のさまざまな場所で語り合い、

交流を深める姿があった。開催地区にとっては社会資源の発掘や何らかの活性化に繋がるとともに、研究大会を企画から運営まで行い無事に成功させた時の感動や達成感を仲間たちと経験することで結束力を確実に強化していくのではないだろうか。本当に多くの方々の支えなくしてこの研究大会は成り立たない。来年はすでに富山県で開催する事が決まっている。今後も各地区会が自分の地区で開催したいと思えるような研究大会にしていきたいと思う。最後に改めて、今大会にご参加いただいた皆様はじめ、これまでご支援いただいた全ての方々に深く感謝申し上げる。



図4 ランチョンセミナー内での体験の様子

※プラネットは、福祉用具プランナーの専門性育成のための「研修」・専門性向上のための「研鑽」・専門性確立のための「研究」をすすめる団体である。(「三研」の精神)

研究大会は、このプラネットの「三研」の精神すべてを網羅する場である。



図5 大会終了後の記念撮影